



IRP's Build Back Better 事例(2004年、2012年、インドネシア)

スマトラ島沖地震以降の災害時における避難行動の改善

2015年9月15日

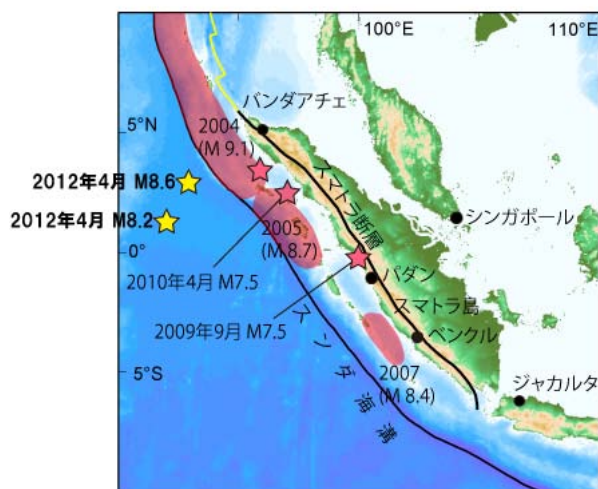
☆スマトラ島沖地震津波の被害☆

2004年12月26日午前7時58分、インドネシア共和国スマトラ島アチェ州沖でマグニチュード9.0(米国地質調査所発表)と推定される海溝型巨大地震が発生しました。

これにより発生した大津波がインドネシアのみならず、遠地津波として、タイ、マレーシアやインド、スリランカ、モルディブ、さらには遠くアフリカ大陸まで到達し、インド洋沿岸諸国に未曾有の被害をもたらしました。これによる被災者は約206万人、死者・行方不明者数は約23万人、被害総額は68億ドルを超えました。この津波では、世界的な観光地であるタイのプーケットなどにおいて、各国の住民のみならず、日本をはじめ欧米等海外からの観光客も多数犠牲となりました。

☆その後の避難行動の改善☆

2012年4月11日14時38分(現地時間)、インドネシア・スマトラ島北部の西方沖でマグニチュード8.6の地震が起きました。インド洋を囲む国々には津波警報が発令されました。津波の最大の高さは、インドネシア ムラボにおいて1.1m(太平洋津波警報センター(PTWC)による)であったため、被害はアチェ州で死者5名、負傷者4人の報告がなされています。地震発生直後、スマトラ島のアチェ州バンダアチェ市内各所に設置された津波早期警報装置が作動しました。この警報により、住民たちは速やかに高所へ避難を開始しました。



スマトラ島周辺で起きた地震(東京大学地震研究所)



写真「津波早期警報装置」
(インドネシア バンダアチェ)

☆IRP's Build Back Better ポイント☆

住民の地震・津波に対する防災意識の向上と津波早期警報装置という、ソフト面とハード面からの防災・減災対策が活かされ、住民の速やかな高所への避難につながりました。スマトラ島周辺の地域は、毎年のように大きな地震が発生しており、さらに、事前の対策が「より良い復興」へつながると考えられています。

☆参照☆

日本地震工学会 <http://www.jaee.gr.jp/jp/2012sumatra/>

東京大学地震研究所 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/PREV_HP/outreach/eqvolc/201204_sumatra/

内閣府 『平成 18 年度 防災白書』

http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h18/BOUSAI_2006/html/honmon/hm01040103.htm